

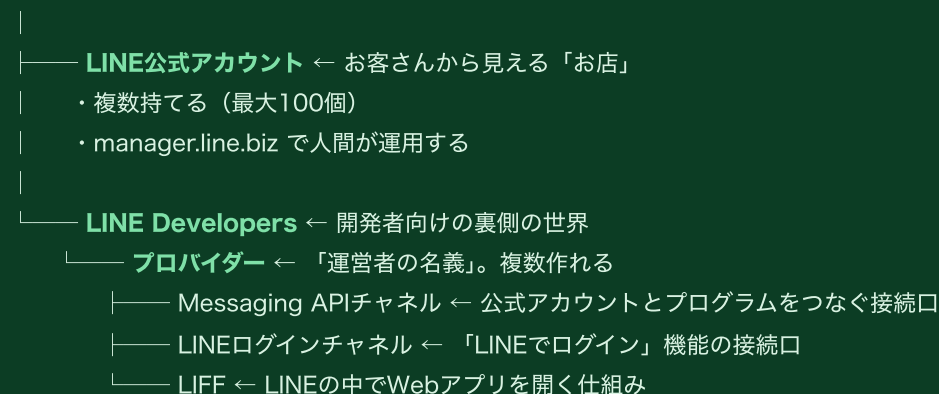
LINE公式アカウントの構造理解

「プロバイダー」と「チャンネル」がわかれば、自動化の全体像が見えます。

LINE公式アカウントは、お客さん側のLINEアプリに「友だち」として現れる事業者用アカウントです。一斉配信・自動応答・リッチメニューなどの営業機能が付いていて、無料で誰でも（個人でも）作れます。ただし初心者がつまづくのはアカウント自体ではなく、**その裏側の構造**。LINE Harness導入で触ることになる「プロバイダー」「チャンネル」がどこに位置するのかを先に押さえると、全手順の意味がわかります。

全体構造：3階建てで理解する

LINEビジネスID（あなた個人のビジネス用ログインID）



たとえるなら：

- ・ **公式アカウント** = 店舗。お客さんが見るのはここだけ
- ・ **manager.line.biz** = 店のレジと事務所。人間が手で操作する場所
- ・ **プロバイダー** = 運営会社の名義
- ・ **チャンネル** = 店の裏にある業務用の通用口。プログラム（LINE Harness）はここから出入りする

お客さんには店舗しか見えませんが、自動化とは「通用口を開けて、店の業務をプログラムに委託する」こと。だからLINE Harness導入では、表の manager.line.biz と裏の LINE Developers の両方を触ることになります。

なぜチャンネルが複数あるのか：チャンネル＝「機能ごとの契約口」

チャンネルは「アカウントの分身」ではなく、**機能単位の接続口**です。LINE Harnessが3つ作るのは、それぞれ役割が違います。

チャンネル	役割	LINE Harnessでの用途
Messaging API	メッセージの送受信をプログラムに開放する口	配信・自動応答・友だち情報の取得。 本体
LINEログイン	「LINEでログイン」を提供する口	フォーム回答者が誰かを特定する
LIFF	LINEアプリ内でWebページを開く仕組み	回答フォームなどをLINEの中で表示する

実際、LINE Harnessの導入で作るのもこの形です。1つのプロバイダーの下に、Messaging APIチャンネル+ログインチャンネル+LIFFがぶら下がります。

重要な対応関係が1つ：**公式アカウントとMessaging APIチャンネルは1対1**です。1つの店舗に業務用通用口は1つ。ここが結びつくことで「この公式アカウントの中身をプログラムが操作していい」という契約が成立します。

なぜ公式アカウントを複数持てるのか：目的別に分ける前提の設計

LINEは最初から「1事業者が複数の店を持つ」前提で設計されています。典型的な使い分けは：

1. **店舗・ブランドごと** — 店舗が複数あれば店舗ごとにアカウント。配信内容も友だちも店ごとに分離できる
2. **テスト用と本番用** — 友だち0人のテスト用アカウントを先に作り、そこで導入や配信を練習する。壊しても誰にも迷惑がかからない実験場を持てる
3. **クライアントワーク用** — 制作代行なら、クライアントごとに独立したアカウント+独立したプロバイダーで納品する

この中で特に大事なのが**2**です。アカウントは無料で何個でも作れるので、まずテスト用を1つ作って練習する——ここから始めれば、失敗を恐れる必要がありません。

初心者が知らずに踏む罠：プロバイダーの分け方

構造理解で一番実害があるのがここです。

- ・ **同じプロバイダー内のチャンネルは、同じ人を同じユーザーIDで認識します。** Messaging APIとログインチャンネルを同じプロバイダーに置くから、「フォームに答えたこの人」と「友だちのこの人」を同一人物として突き合わせられる。**1サービス=1プロバイダーにまとめるのが原則**です
- ・ 逆にプロバイダーが違うと、同じ人でも別IDになり、後から紐づけられません
- ・ **チャンネルは作成後、別のプロバイダーに引っ越せません。** 最初の置き場所を間違えると作り直しです
- ・ クライアントワークでは逆に、**クライアントごとにプロバイダーを分けるのがマナー。** 自分の名義に他社のユーザーIDを混ぜない

まとめると原則は一つ：「**1つのサービスは1つのプロバイダーに、別のサービスは別のプロバイダーに**」。

まとめ：一文でいうと

LINE公式アカウントは「表の店舗」、チャンネルは「裏の業務用通用口」、プロバイダーは「その名義」。**店は目的別に何個でも持ててよく、通用口は機能ごとに分かれていて、名義はサービス単位でまとめる**——この3行が構造のすべてです。

この構造の上に自分のLINE自動化基盤を建てる手順は、AIが最後まで伴走する講座にまとめています。

質問があれば、このLINEにメッセージでお気軽にどうぞ。

ポポコム

@popocomharness